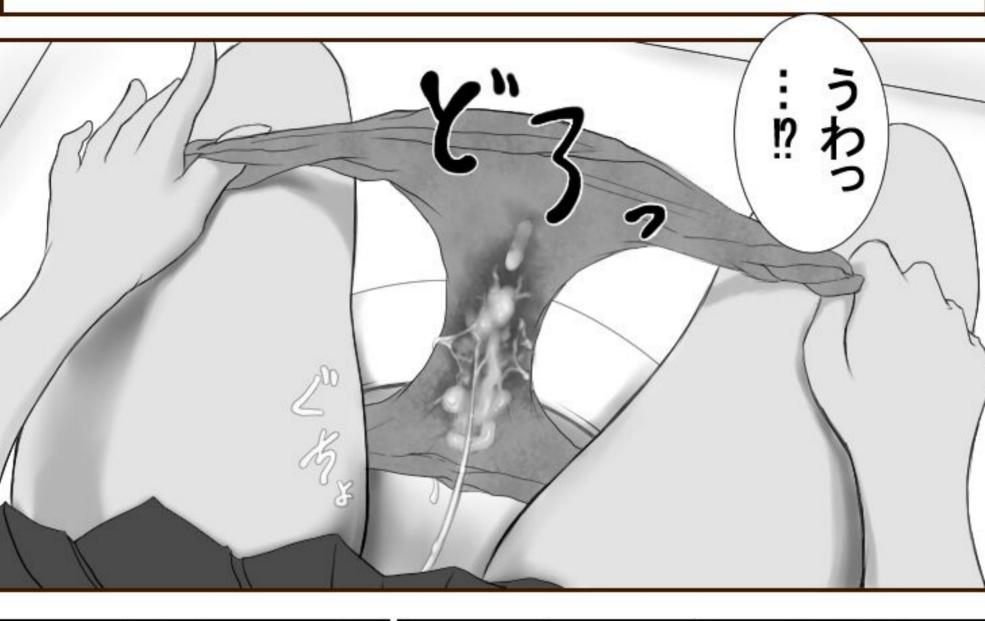




表 冬也宅のトイレにて





















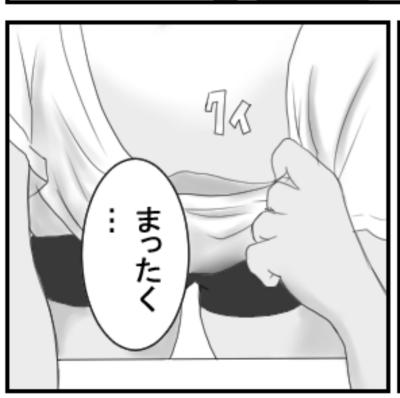






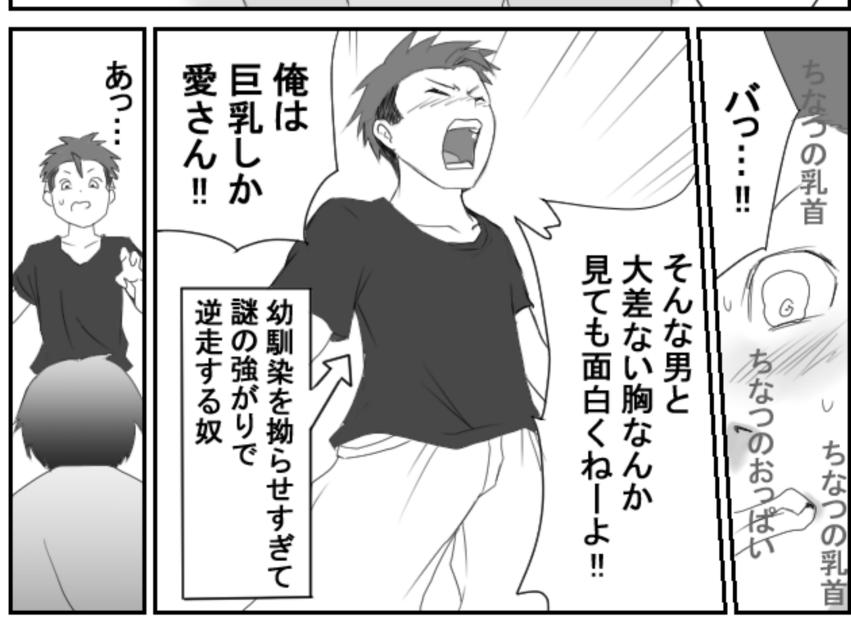








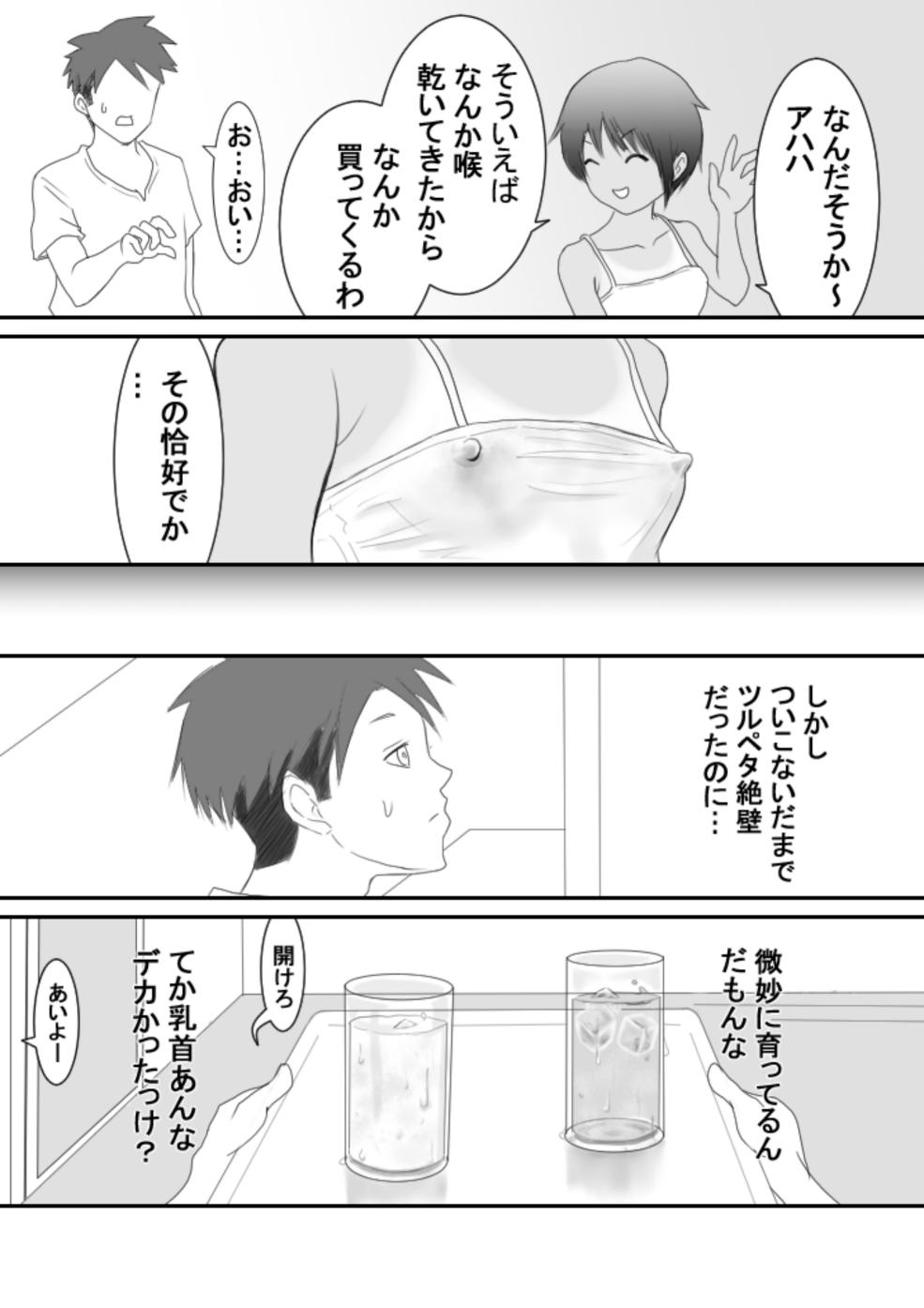








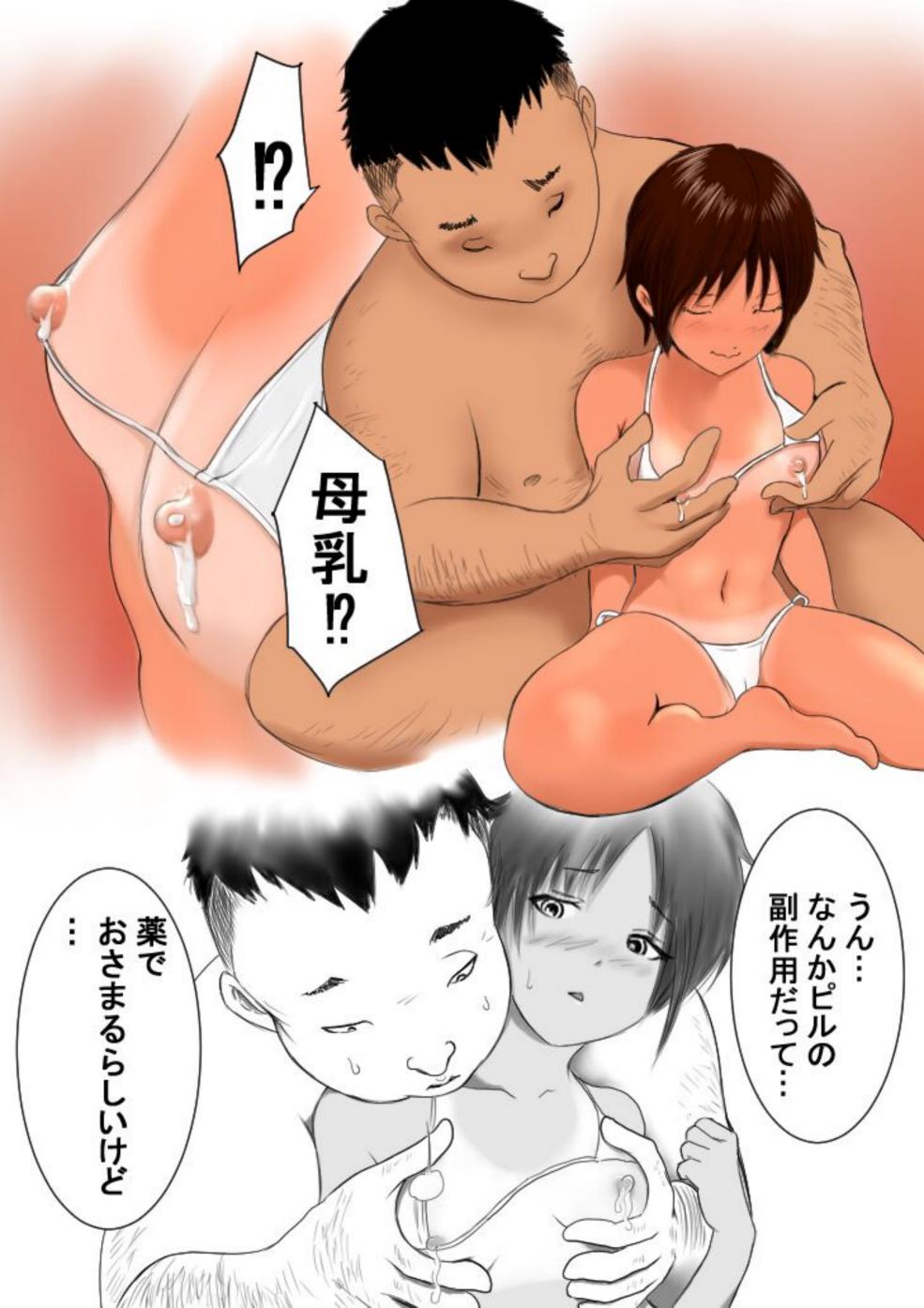




















































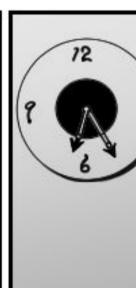
























鼻息荒すぎ…

































































やったし…』 『え?あ…あぁ~そうなんだよ~足痛くって…結局5セットも

るぞw』 『5セット!? そんなにやったらムチムチどころかパンパンにな

『 ム … 』

いキツそうな声出してたよな』 『…しっかしよ~カーテン閉めたあと重量挙げかよ!ってぐら

『えっ!!』

『その…まぁ、なんだ…変な声と間違われるかもしれないから



窓越しのここからでは割と華奢なほうであろう上半身(特に胸とか)しか見えな いが最近尻とか太ももの主張が強くなった下半身を思い浮かべてみた。

。ちょっとムチムチになったな』

『ムチムチって…ちょっと!そこは「そんなことないよ」だろ!』

憤慨する千夏に咄嗟にフォローを入れる。 色々残念なくせに女の子っぽい事も一様気にするんだなと、意外に思いつつも 普段ボーイッシュというか男勝りというかガサツというかだらしないというか

『い…いや別に今ぐらいでもいいと思うけど』

個人的 してはむしろ今ぐらいのほうがいいまである。 には上下華奢な体系よりもちょっとムチっとした体系の方が好みの俺と

『ま、 まあ いいよ!…というわけでスクワットするから数えて』

『自分で数えんかい』

『いくよ』

いきなりの謎展開に呆れ顔の俺をよそに頭の後ろで手を組みスクワットの体勢

うけど小さいと先端まで全部見えちゃうんだよな。 ノーブラだし…あんなダボダボのTシャツでも巨乳なら谷間しか見えないだろ なんか声 ンジの声だ。 がエロいな…普段の喋り声より少し高めでギャップのあるかわいい しかも前屈みのときになんか色々見えるんだよな。 61 つも 0 如 < 力

『さーーーーーーーーーーーーーーーール』

『あっ』

ん?腰を下ろしたまましばらくたっても顔を上げてこない。

『えっ!もう終わり!?さすがに現役じゃなくても3回はないだろ~』

らないだろう。 いつも傍若無人な振る舞いをされてるからな…これくらい煽ってもバチは当た

『…全然よゆーだし…』

全然よゆ ーに見えないし…声だけ窓の奥から聞こえるものの依然として腰を下

ろしたまま姿を見せない千夏。

『えっマジ!?部活してた頃は百回ぐらい余裕でこなしてただろ。 そんなに体力



1 6

『んんっ』

相変わらずゆっくりとしたペースで腰を下ろすたびに熱を帯びた声を漏らす。

『ちゃんとしたフォームでやってるか?じゃないと腰とか膝とか痛めるぞ?』

ふと気になってフォームを確認する為に自分の部屋の窓の縁に手をかけ体を乗 り出すようにして千夏の部屋を覗き込もうとした瞬間

『大丈夫大丈夫!だから続き…っ』

パンチラぐらいでは何とも思わなくなってしまったからどうでもいいんだが。 いつも制服でもお構いなしに大股広げてパンツ晒してるくせに。さすがにもう と、慌てて続きを促がす千夏。あやしい…おおかた下はパンイチとかなの

どっちみち見えそうもないしな。

『そうか…こっからだと上半身しか見えないからなぁ』

と、俺はふたたび続きを数え始めた。



何度かあったのですぐ根をあげるかと思ったが何だかんだで50回もできた

な。

こなしても危ないからこの辺で切り上げとくか…』 『まぁとりあえず1 セット50 はこなせたな。久しぶりだし急にハードな回数

へんじがない…死んだか?

『千夏?生きてるか~?』

未だ窓の下から顔を出さない千夏にむかって声を掛けるとよろよろと千夏が起

き上がってきた。

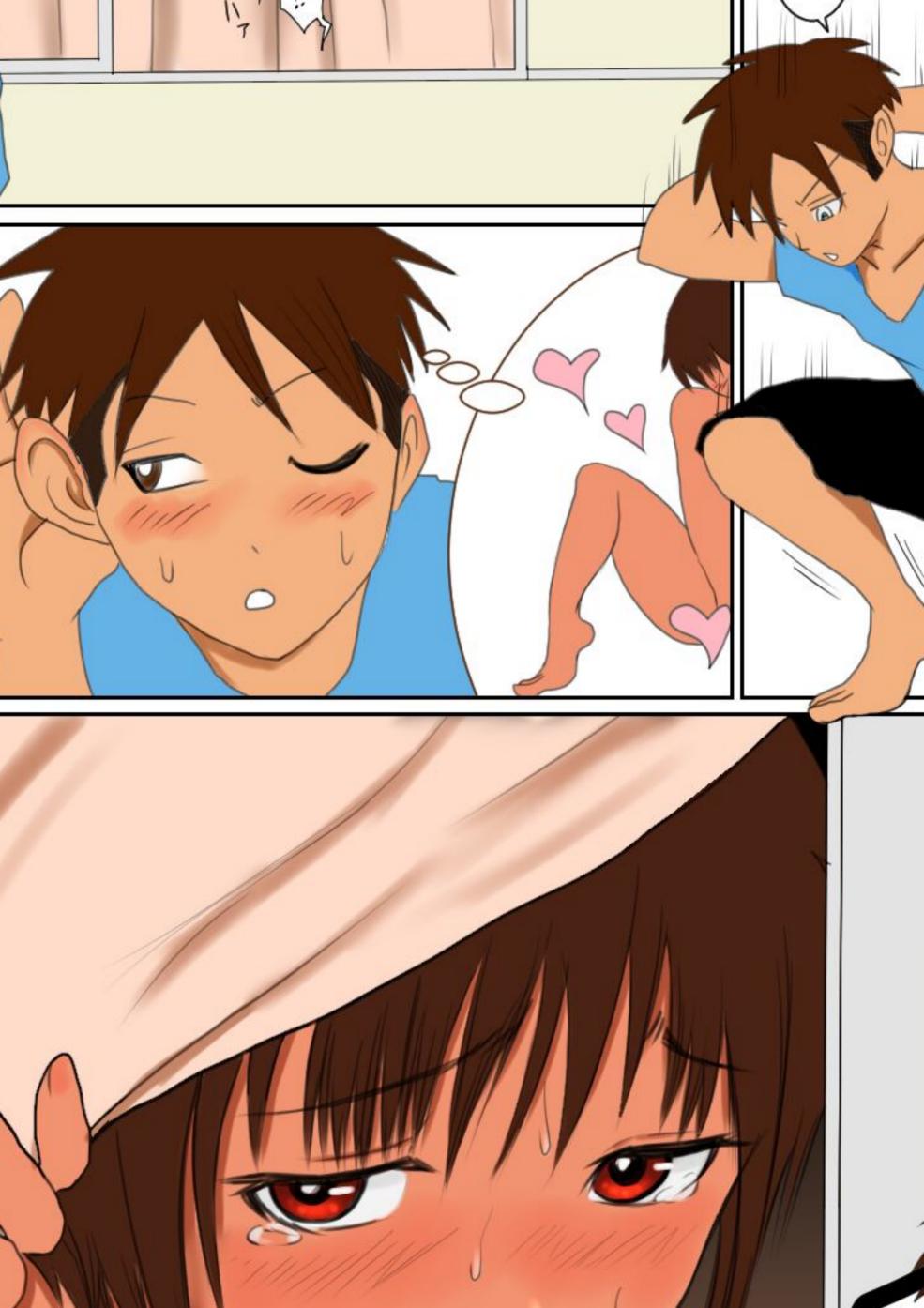
『大…丈夫っ…ありがとっ…もう何セットか続けるけど…んっ!…後は自分で

数えるわ…じゃあね』

そう言うとそそくさとカーテンを閉めてしまう千夏。

『お、おう』

部で毎日筋トレに励んだ身!高校に入ってからはまぁ…アレだが久しぶりに俺 グ気味なのは多少心配ではあるが…追い込むじゃん!俺も中学の頃はサッ 全然大丈夫そうに見えないが更に何セットも続けるのか…オーバートレーニン



と思っていると隣の千夏の部屋から『あっああっあっ』と、 声が漏れてきた。

筋肉痛 をたてない様、 1 まなので カーテン P 確 声は時折聴こえてくるのであっちもまだ頑張ってるんだろう。 は閉 なくてオナニーでもしてたりして…ゴクリと生唾を飲み込み無駄 定だな。 め切っていて中の様子は全く見えないが窓自体は開けっ放しなま 集中して隣の部屋に聞き耳をたてる。 てか声エロ…喘ぎ声と聞き間違えるような声と息遣 11 明 な音 日は 筋

なま か あ う?これは絶対ひとりで自分の秘部を弄ってる音だ!断言するね!! っている。こ、 ? るだろうか!水分補給の為に用意していた飲料を床にこぼして拭 め いや違うね!あんな喘ぎ声みたいな声を出しながら拭くわけが かしい声と息遣いの合間の中で時折ピチャピチャと水気の様 これは…!部屋での筋トレで水気のある音などたてる要素など な音が いてると な

そう確信 した俺の目に飛び込んできた光景、 それは………

近所の犬が庭で美味しそうにペロペロと水を飲んでいる場面だった。 …きょう暑いもんね。 そりゃあ喉も乾くよね。 知ってた

普通に考えてカーテン閉めてるとはいえさっきまで顔合わせてたやつがすぐ隣 に 居るのに窓開けっ放しでするワケないか~

降そういう目で見られちゃいそうだしな…違う違う!途中邪念が混じりそうだ 勝手に想像されたらと思うともうね…一度そういう印象と結び付けちゃうと以 だろうしな…顔見知りの近所のオッサンとかに聞かれて千夏のそういう姿とか たっていうのにおかるんたいおともた!そういう声に聞こえてしまう人もいる

『すごいハードだな。…大丈夫か?』

ったのを振り払っておずおずと隣に話しかける。

 \exists

へんじがない。最中にいきなり声をかけられおどろきとまどっているのだろう

か ::

ハードトレーニングでぶっ倒れている可能性もあるしな…

『千夏?いるんだろ?』

再度声をかけてみる。 するとカーテンの端っこを捲って顔だけ見えるようにし

て千夏が出てきた。

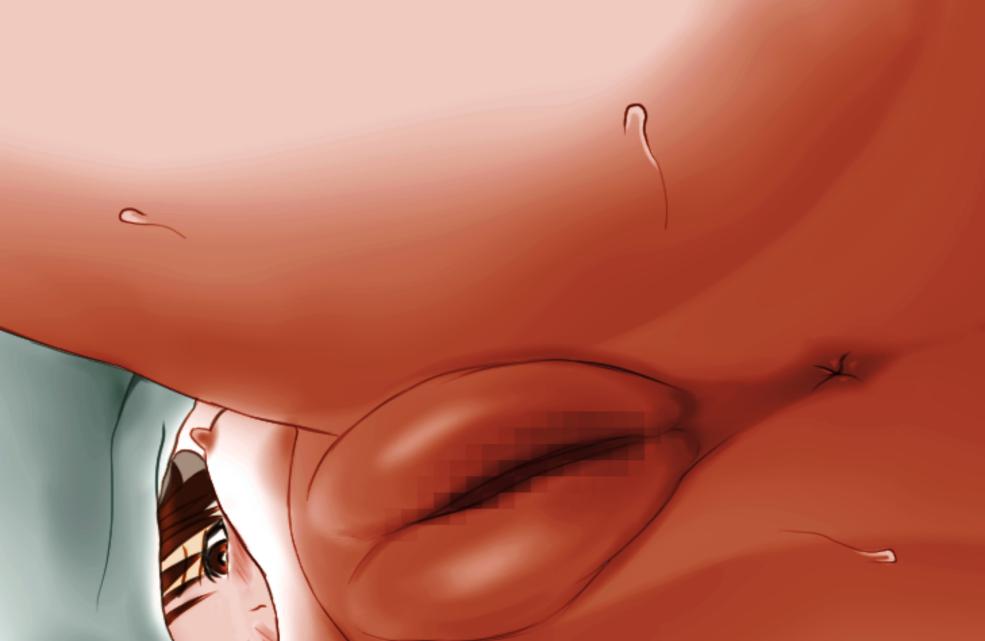
『だい…じょうぶ…今2セット目が終わったから…』

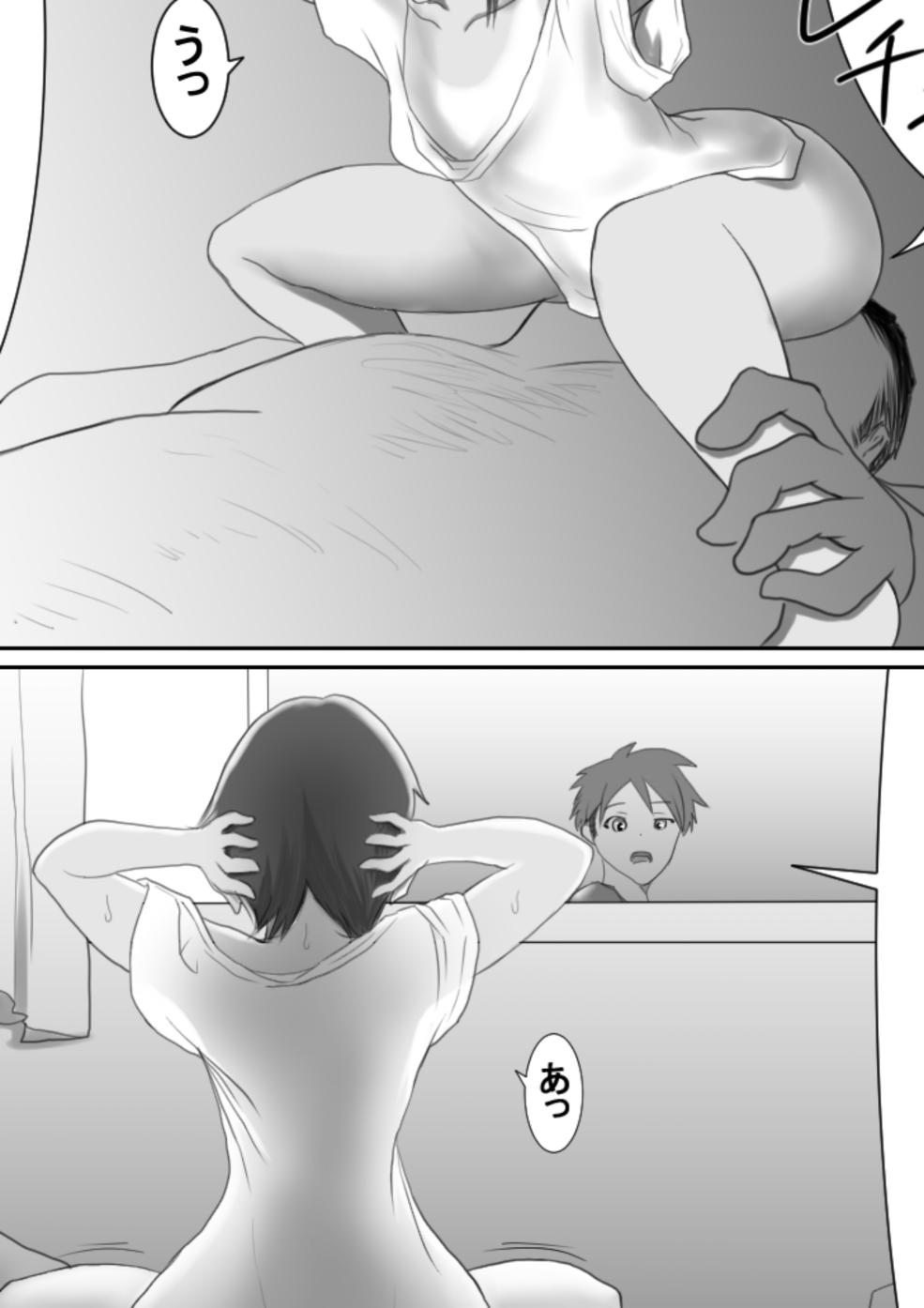
そう言った千夏の顔はさっきよりも上気して紅く染められ息も絶え絶えだ。

結局、 屋からは荒い息遣いなどの筋トレの気配が止むことはなかった。 共働きでいつも帰りが夜遅い千夏の両親が帰ってくる少し前まで隣の部







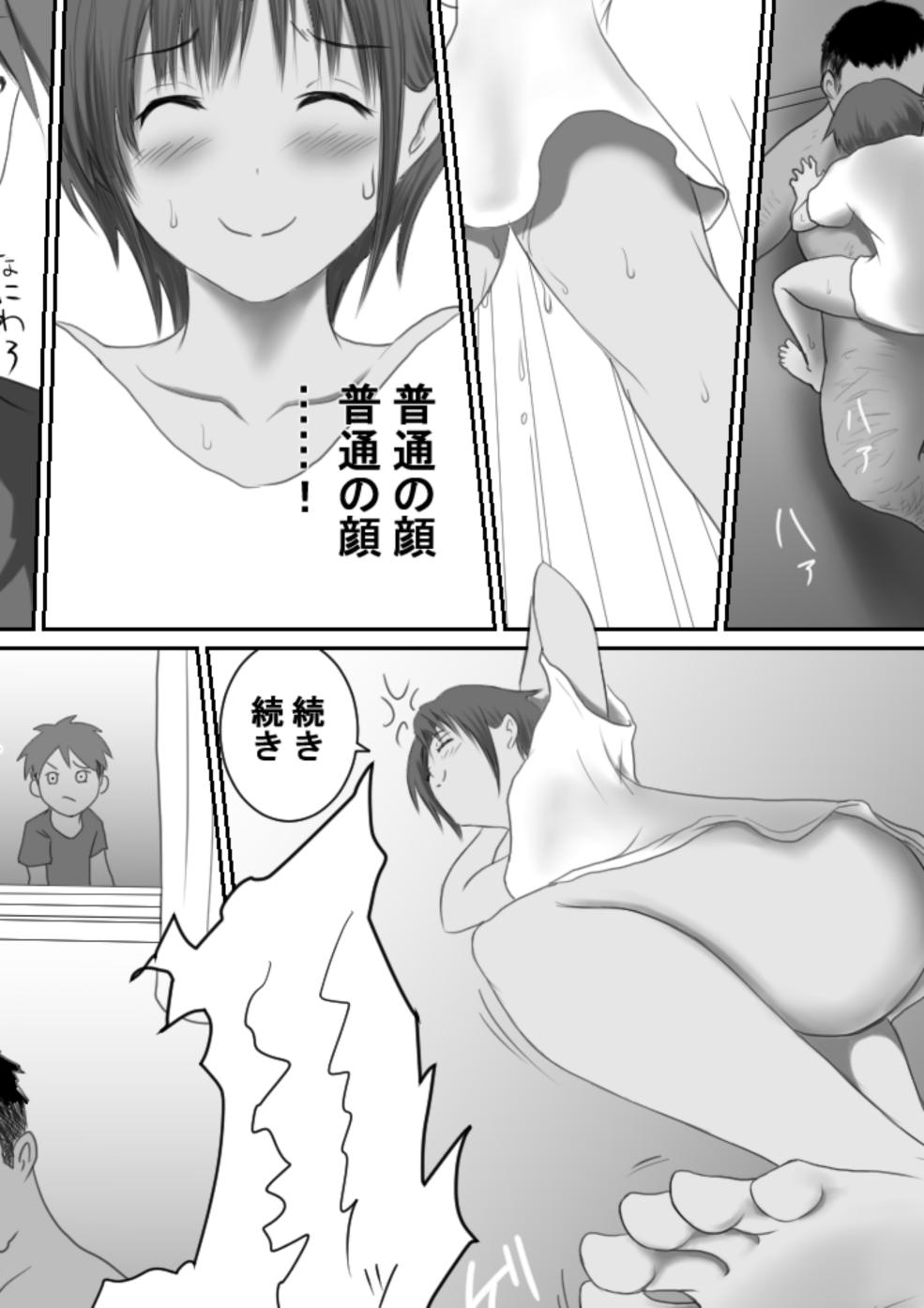






















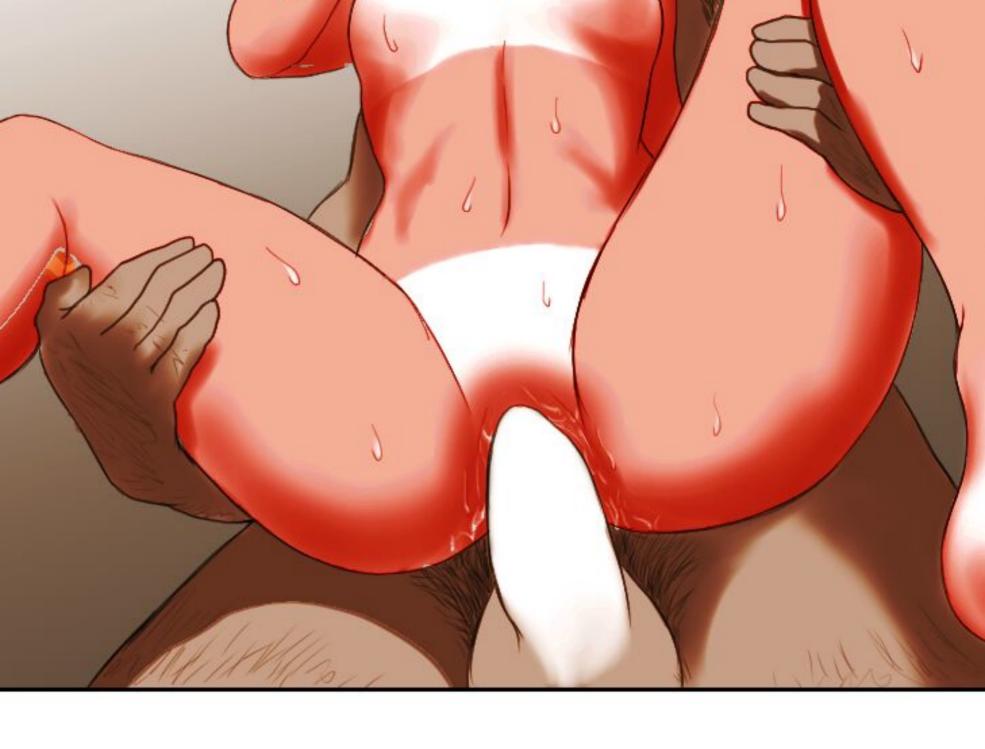












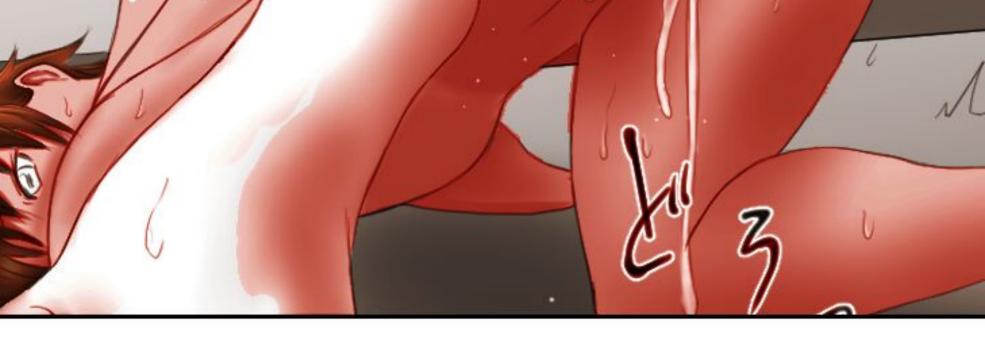




























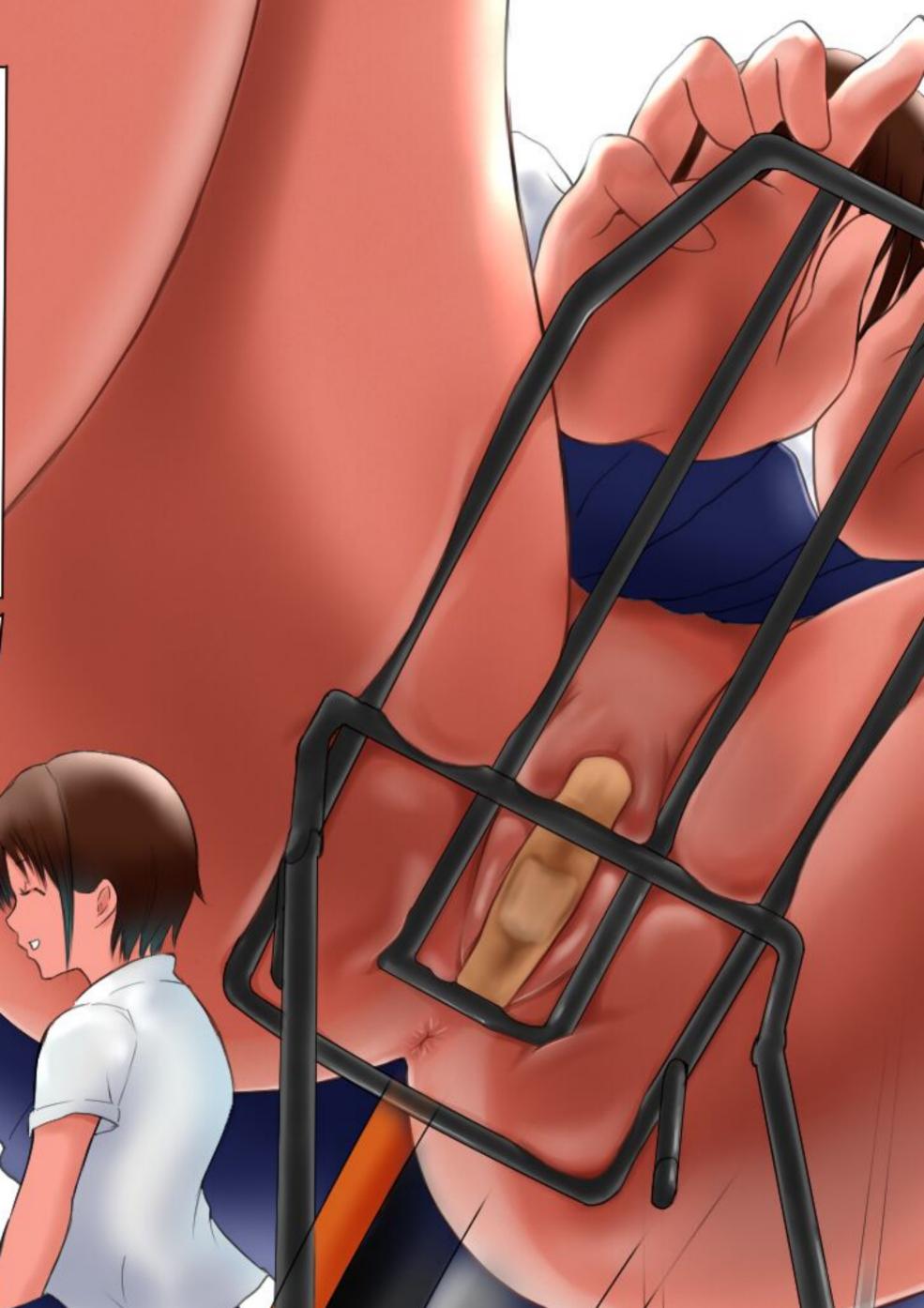


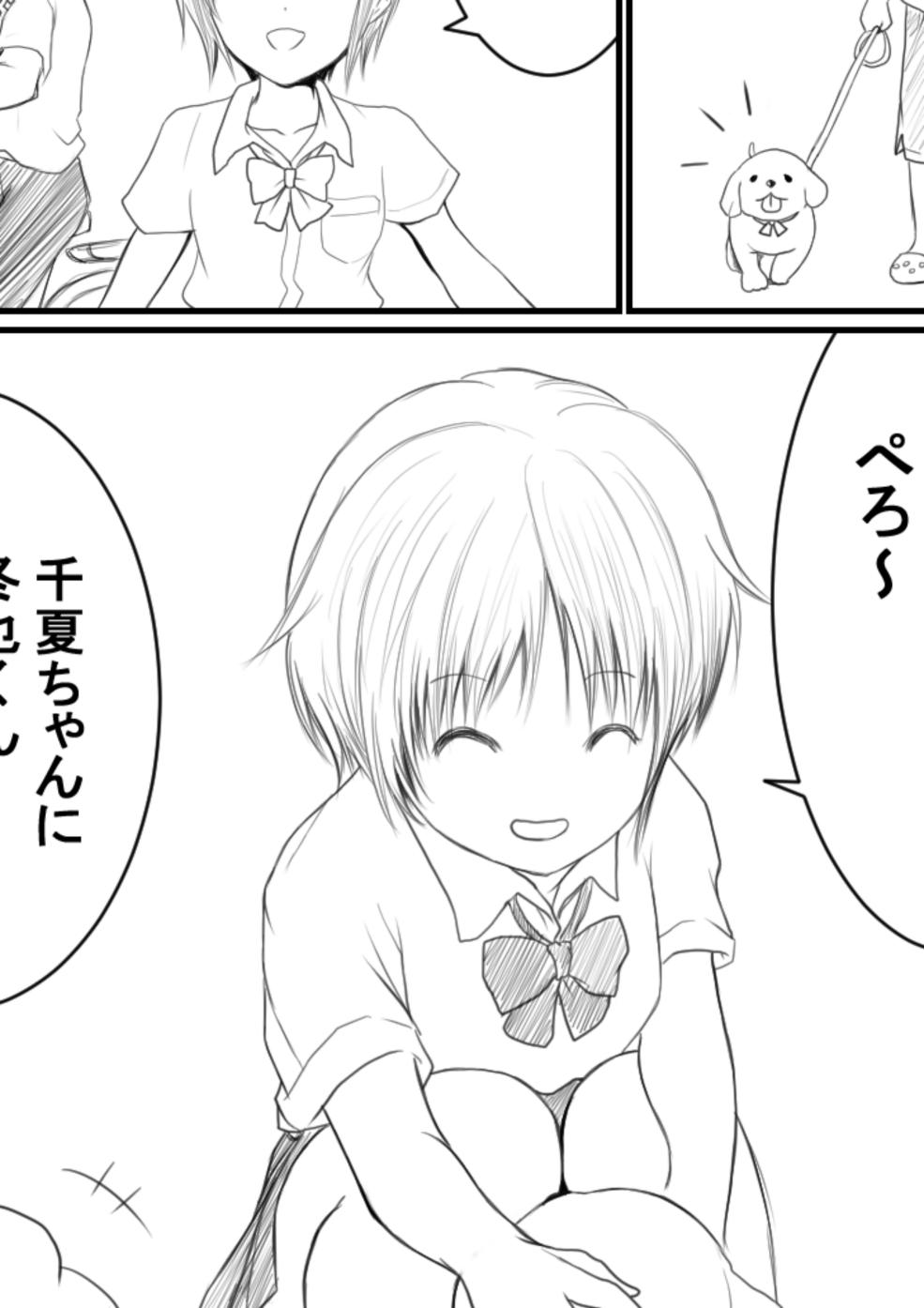














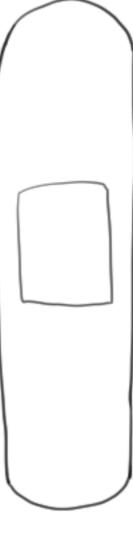


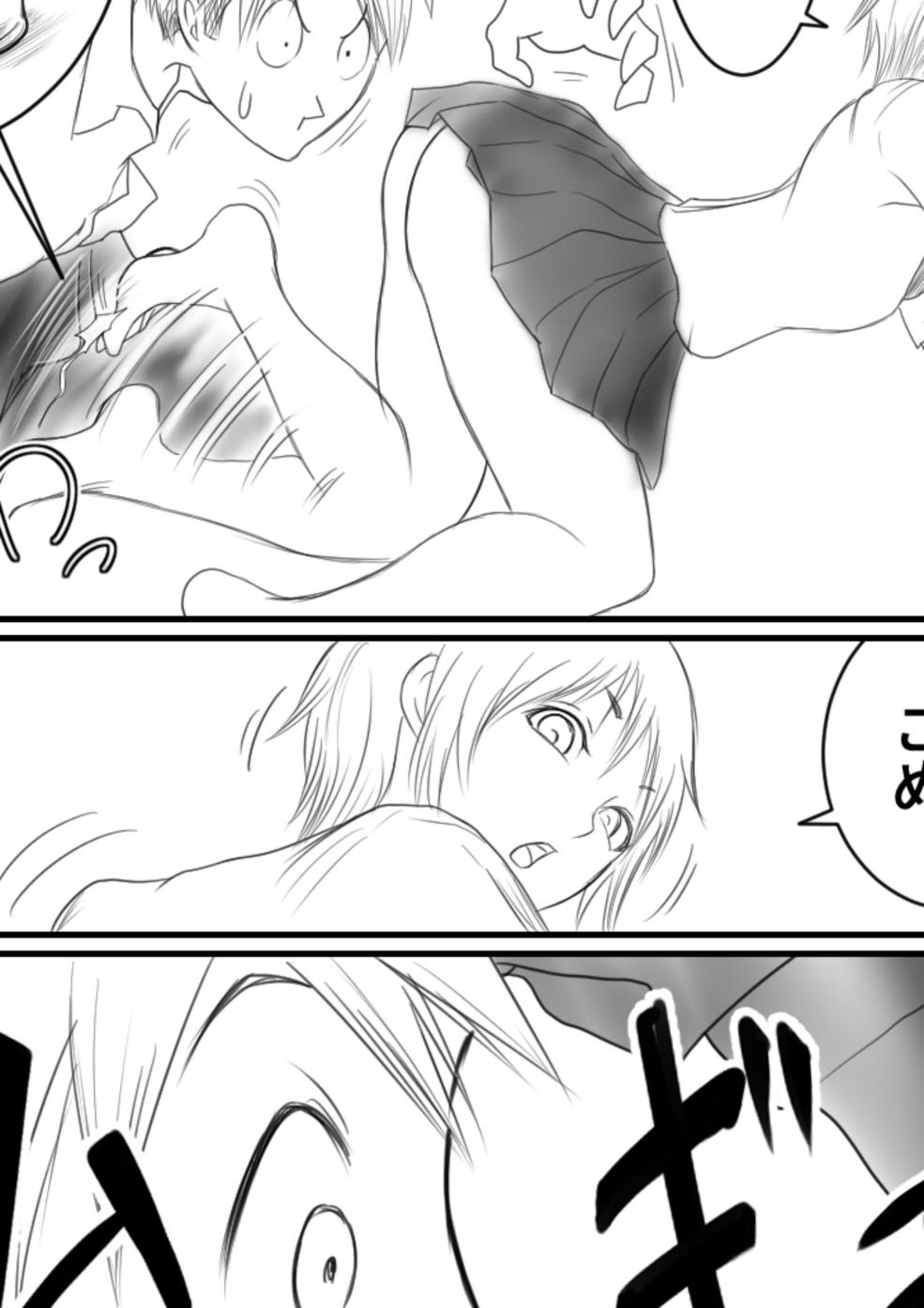






見てみたい...千夏のまんこ…













しないで一緒に出…お、 『おせーよ!もう始まっちゃってるし!だからわざわざ待ち合わせなんか 浴衣』

『着付けに時間かかっちゃって…どう?』

高ですね!控えめにいってウチの幼馴染かなりかわいいのでは!?】 と違ってイイな。さらに急いで来たから汗ばんで妙に色っぽいのがまた最 【か…かわいい…暖色系の浴衣が千夏っぽくて似合ってるし髪型もい

『…馬子にも衣裳だな』

『む!…ま、 まぁ冬也の為なんかに着てきたワケじゃないしね!それより

花火花火!』



ぶない!あやうく羞恥でのたうち回るところだった!滅多なこと言うもん ………①笑う、②大笑いする、③腹抱えて爆笑する…くそが…あぶないあ か?さっきなんか怒ったし…】 ったら死んでまう…でもそんなこと言ったらこいつどんな顔するんだろ? った!いや言ってないけど!思っただけだけど!そんな恥ずかしい台詞言 【正直花火よりも目を奪われるんだが…ってうわ!今俺恥ずかしいこと言 ゃないな!…だけど『浴衣似合ってる』ぐらい言ったほうがよかった

『…ゆ…浴衣似合ってる』

『え?何か言った?花火の音でちょっと聞こえない』

『いやなんでもない…』 【クソがーー

『…プッ!まったく、最初から素直に褒めときゃいいのにw』

『彼氏!?いんの!?』

『いたらあんたと今一緒にいないでしょ…』

『それな』



『始まっ…ちゃった!ねぇ…はやくイって』

『ナカに出るけどいいのか?』

『いいから…』

『下着ないのに?』

『もう!先生が着けてくるなって言ったんじゃん…いいからはやく…』

『ウッ…!!







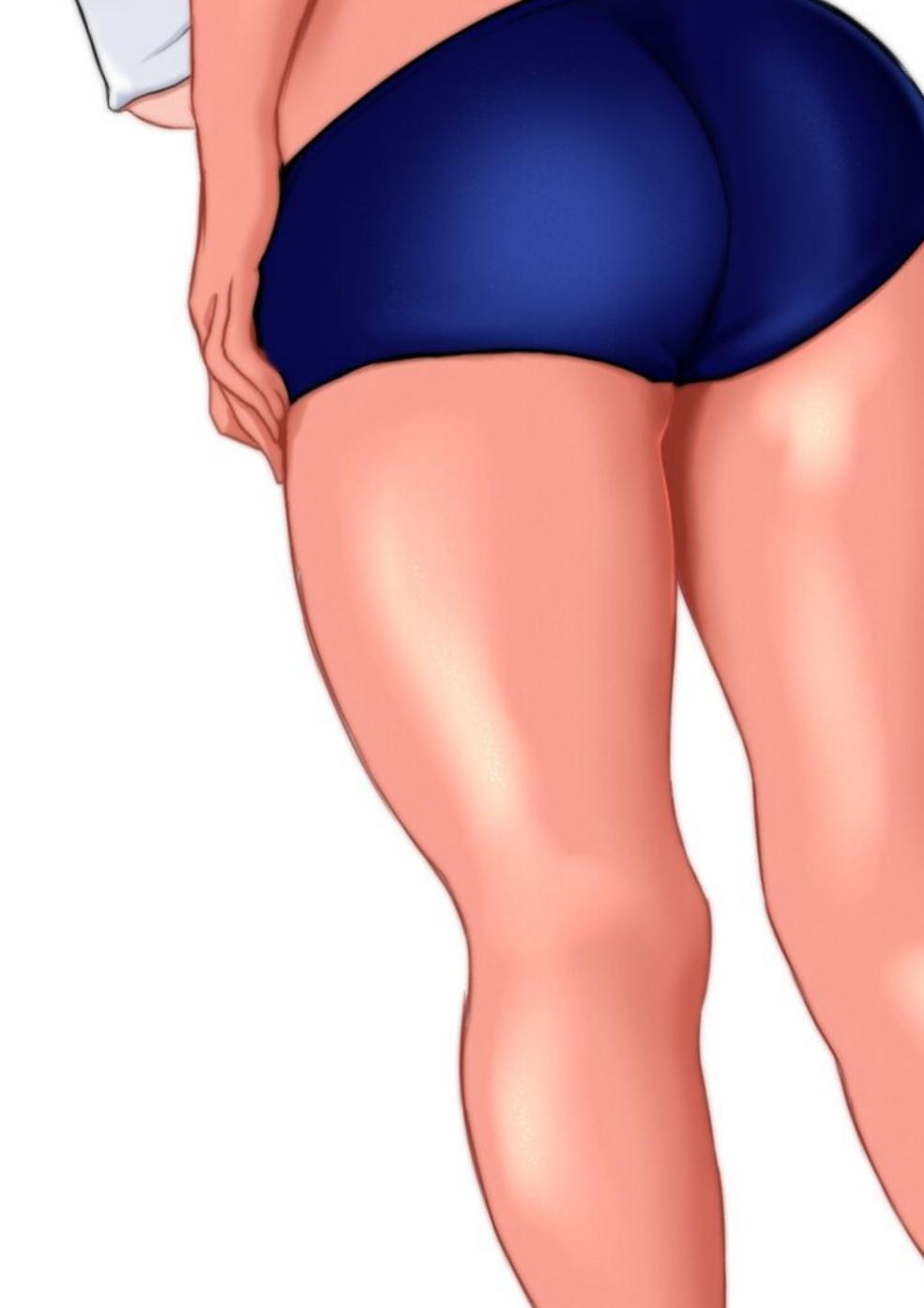






























































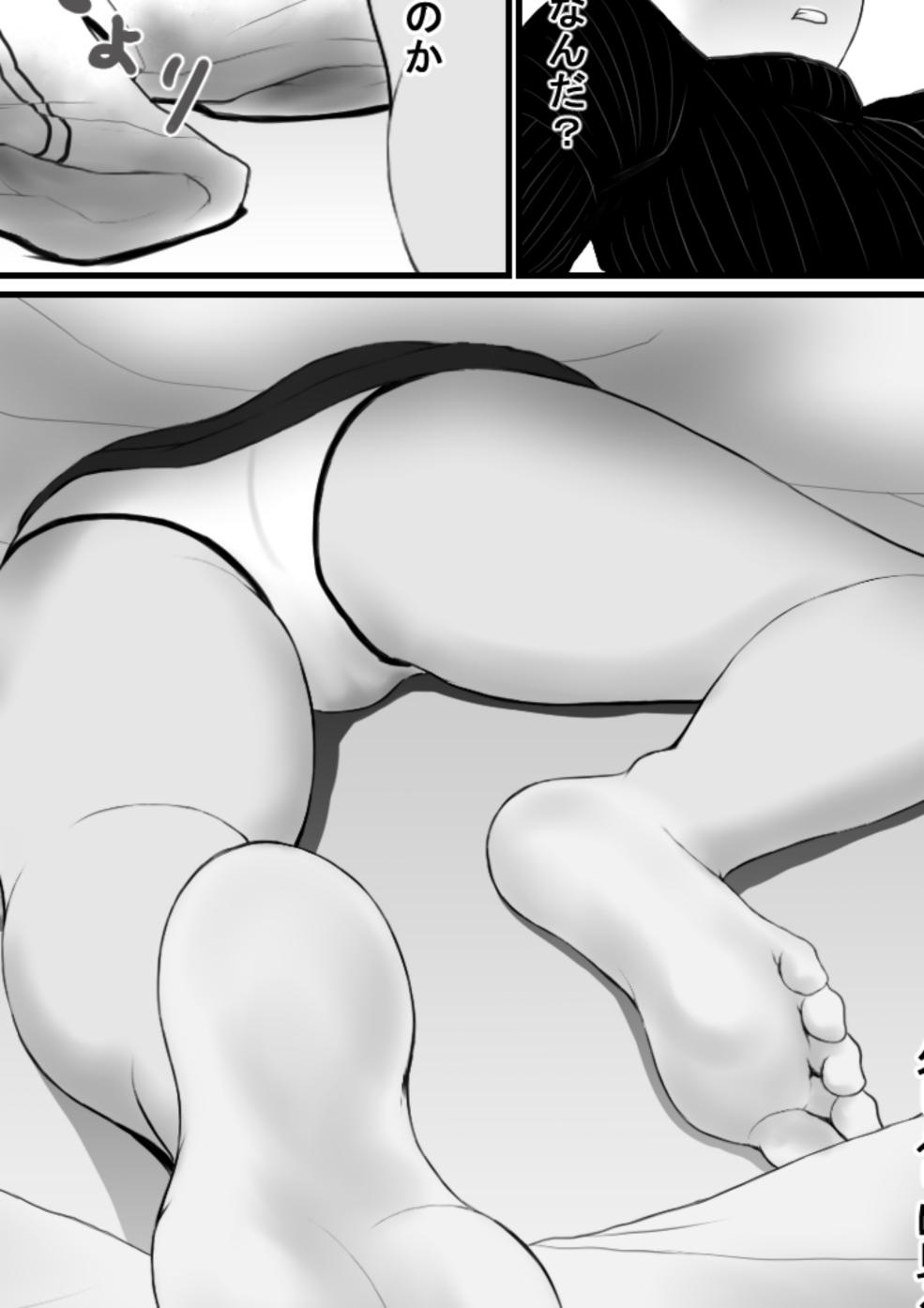




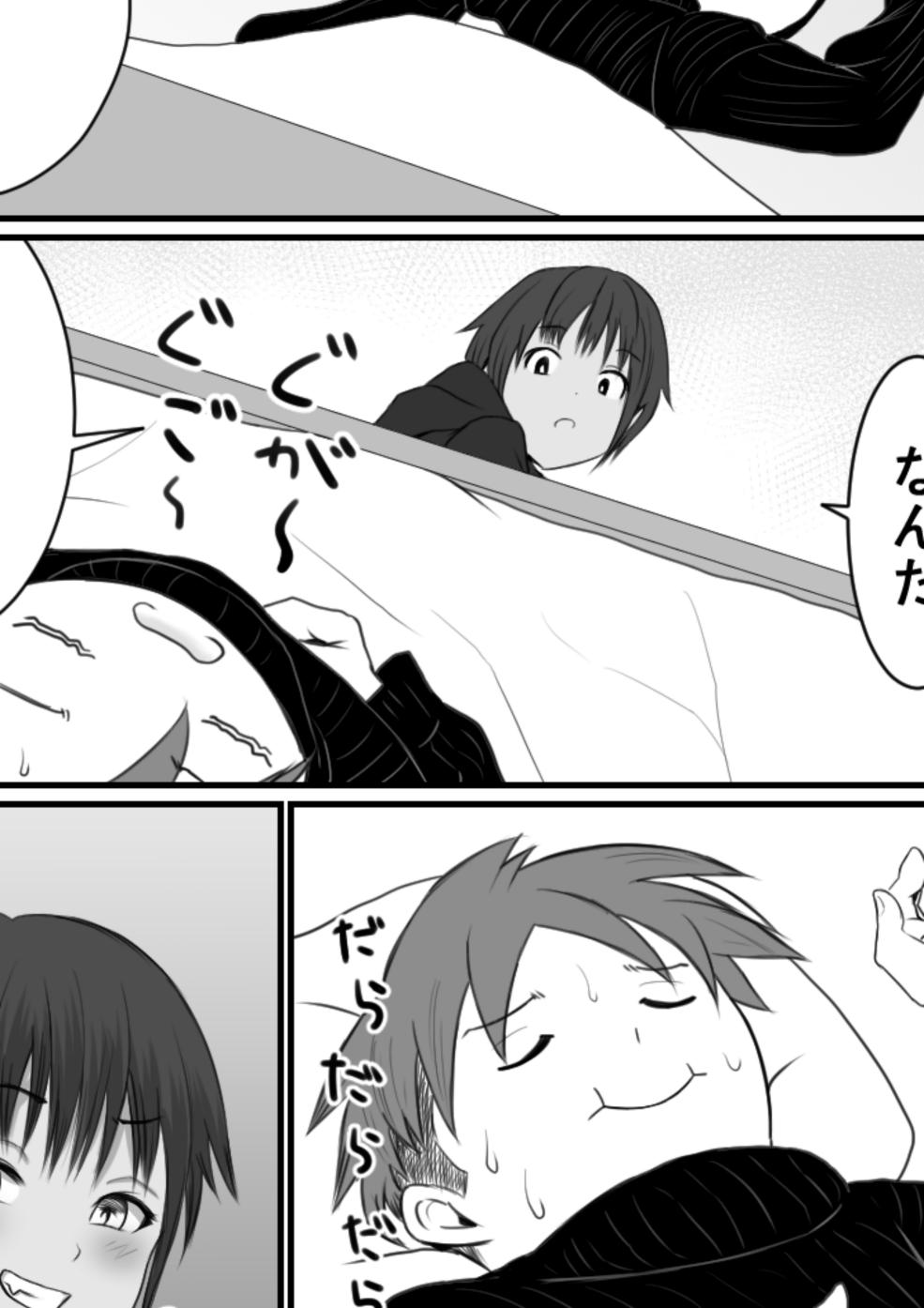




























































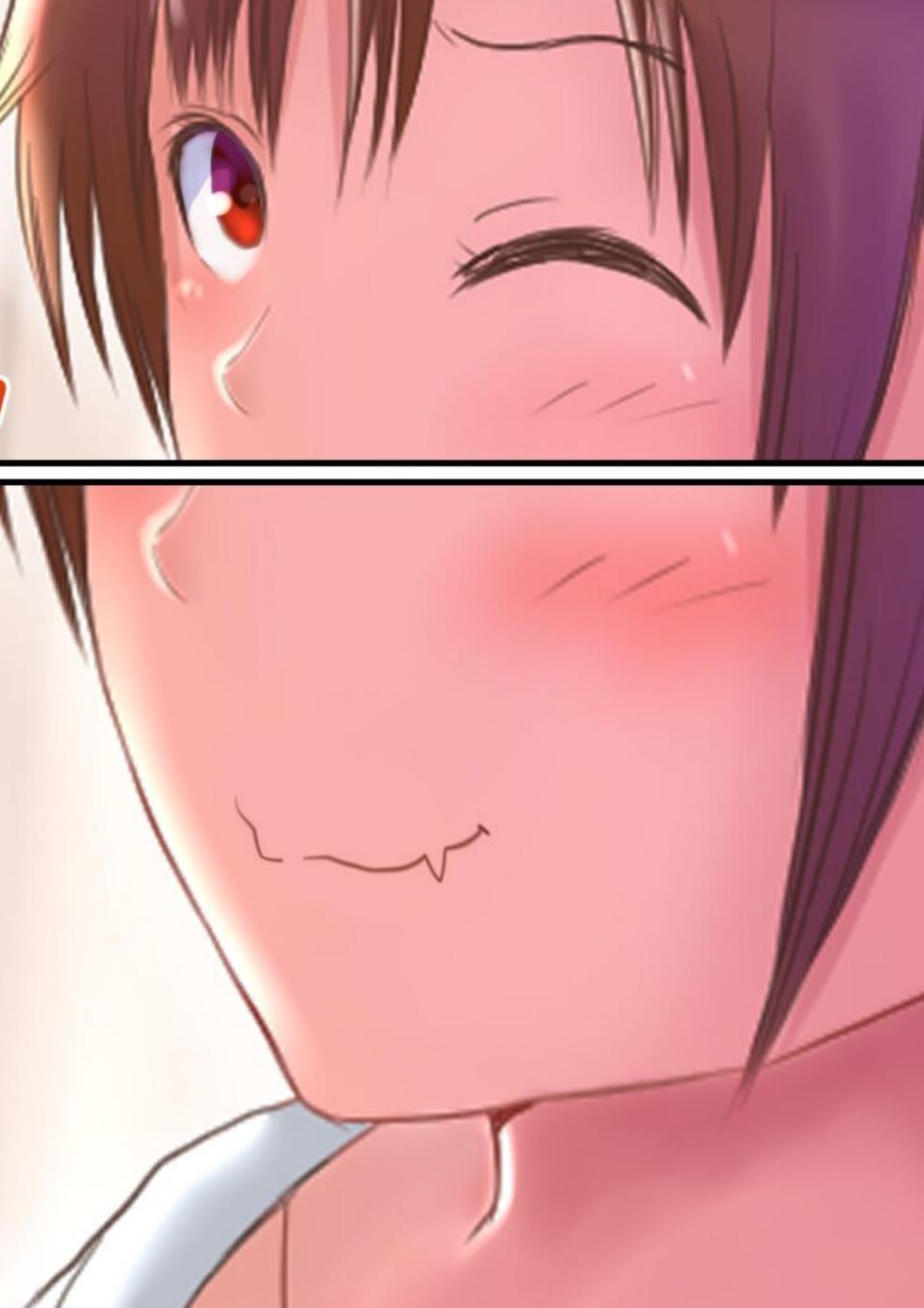














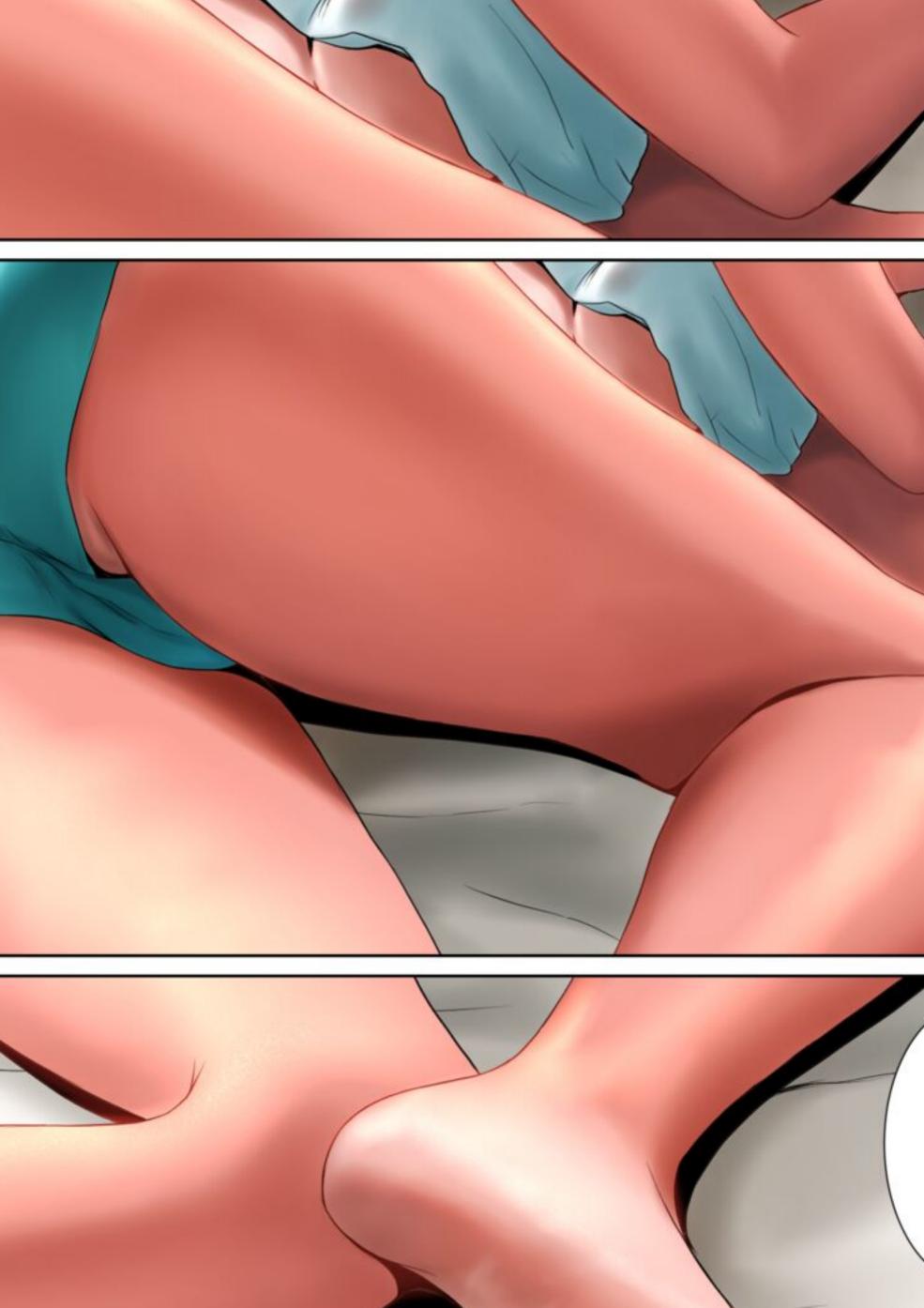












まずハナビ胸とかはさすがに **しっとりしてる** ちょっと やわらかくて 嗅な濃いでか













いいのに…

最後まで…



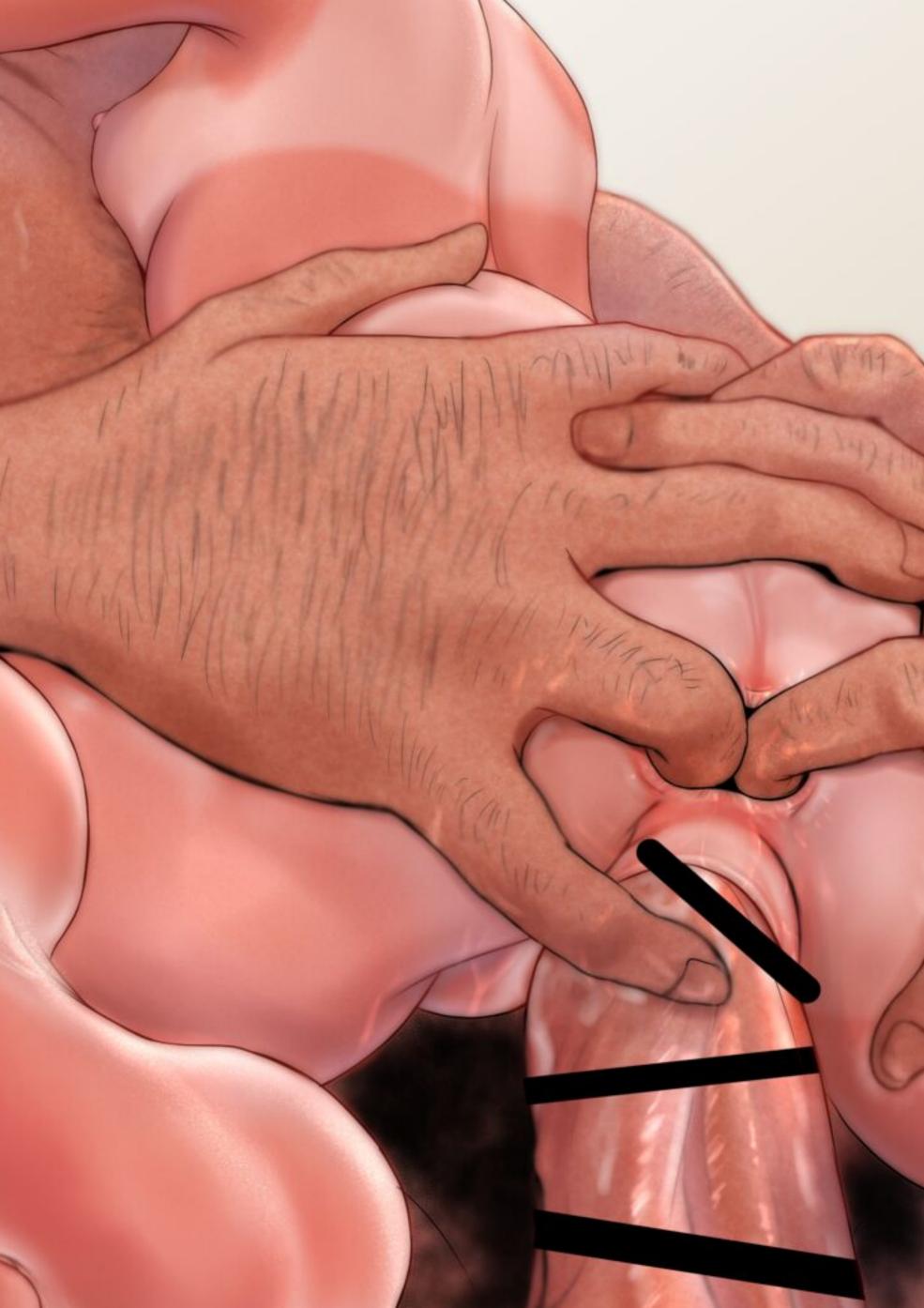


でも…





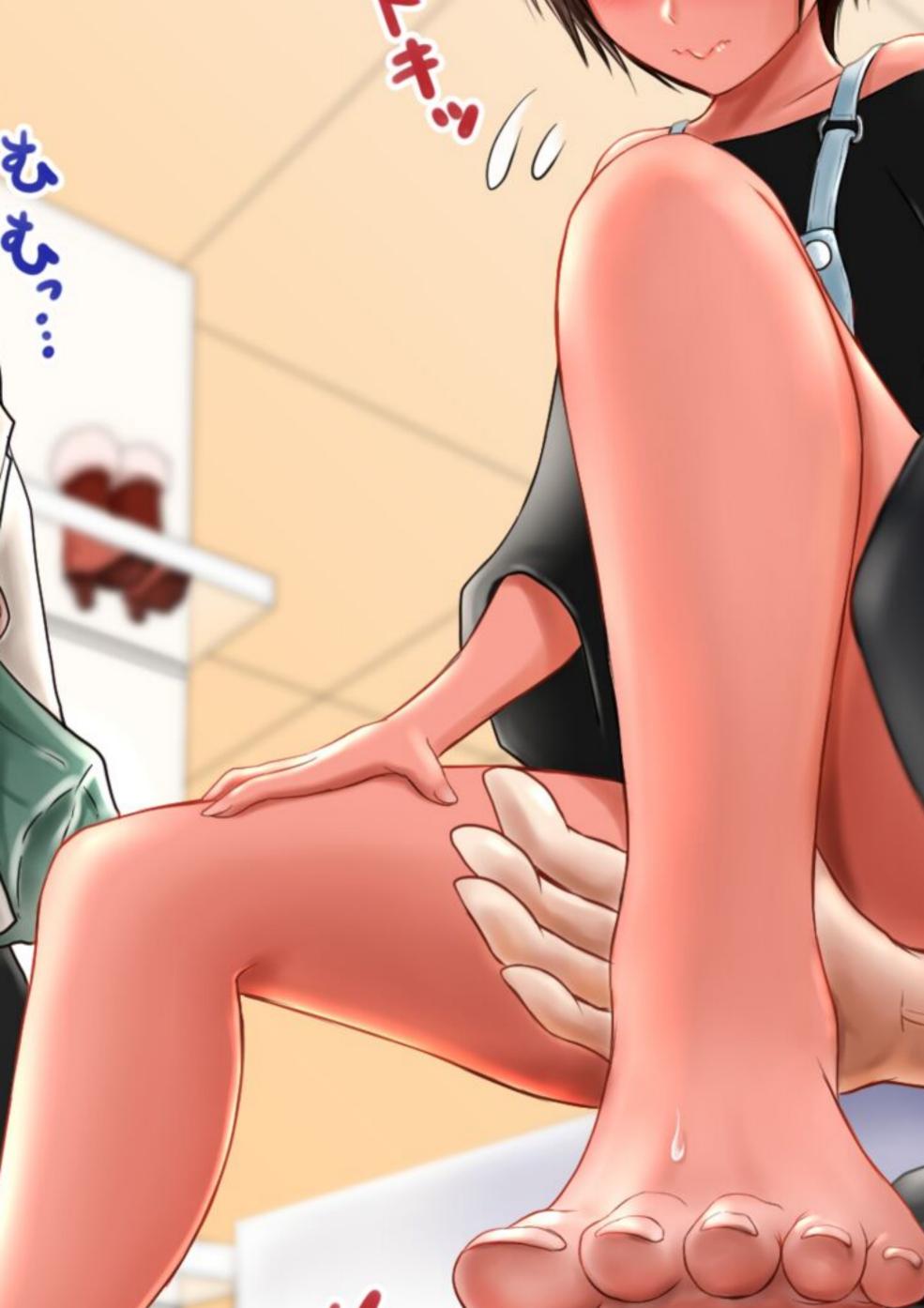


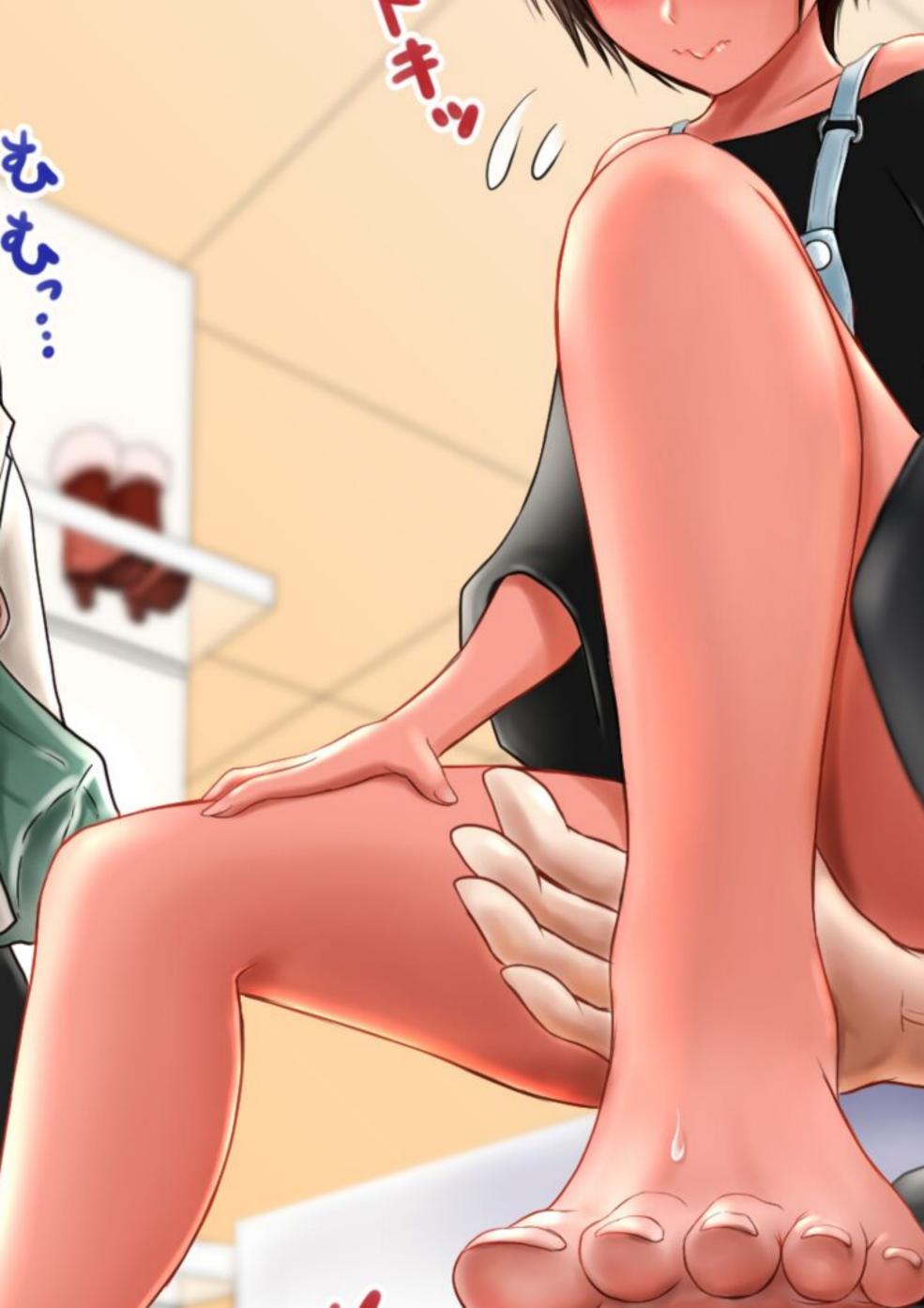






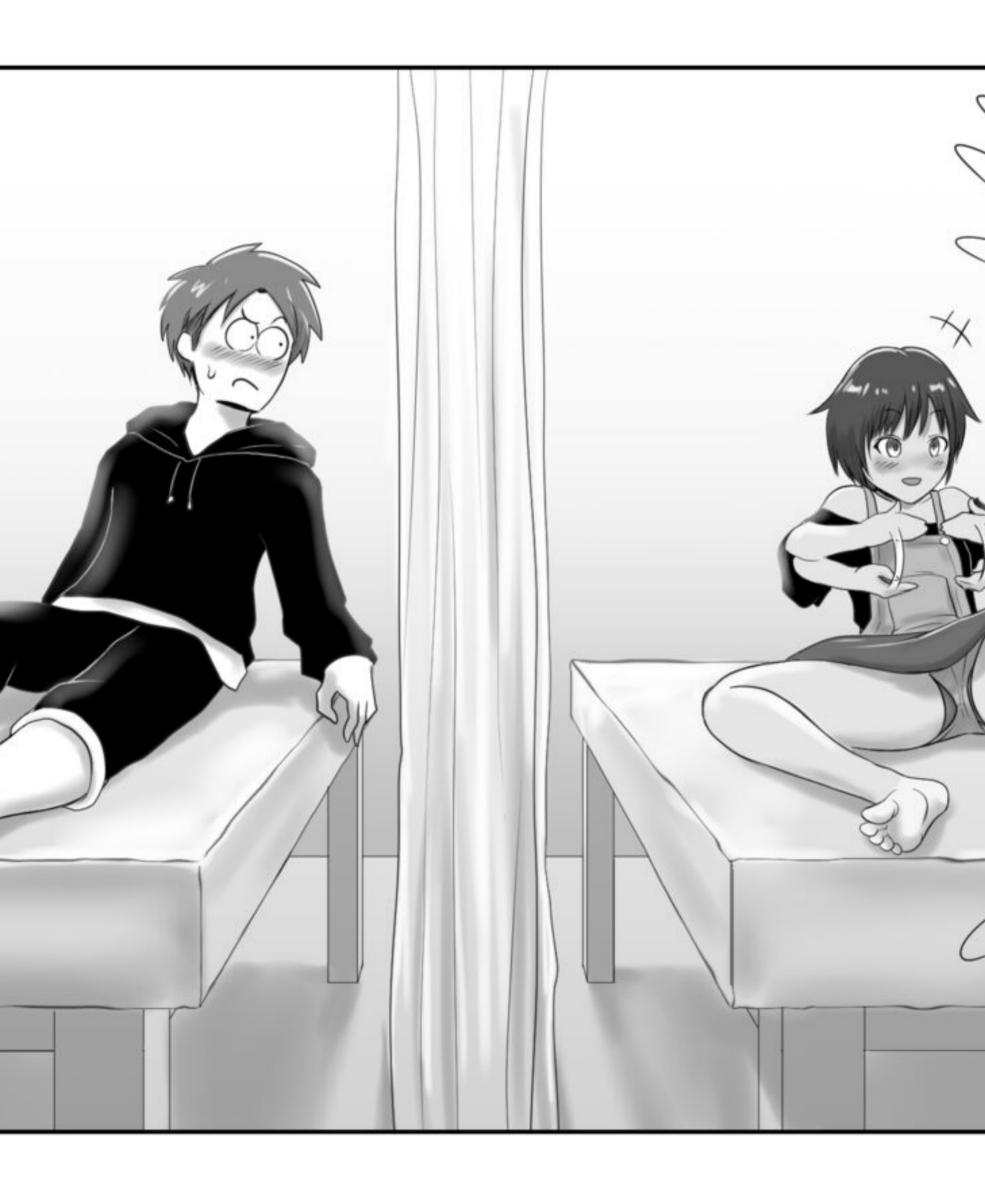














りかったらだめだよ~』じょわわあ~~汗 ん『そそそそそんな事するわけないじゃないかぁ へえ〜誰もいなかったら変なことするんだ?』 なことするわけないじゃないか~』じょわぁ~~汗

いこと言わないでおくれよ千夏ちゃん~冬也くん

,

ん『そ…そういえばバストアップのつぼなら足以



」じょわ~汗 ん『大丈夫だよ〜側面だから!核心には触れてないからセー

゚いや…もはや直じゃん…』

ん『やっぱりバストアップには直接揉むのが一番効果高い!

よわわ~汗

゚いや…そういう問題じゃなくて…んっ♥ 』



えっつ…!!!』じゅわ~液 しょわ~汗 **開発してもらったのかな~?すっかりエッチ**

こうノニン

こう て えい

!冬也君に聞こえちゃうよ~!しっかしず



いこの方がより活性化しやすくなる

ないんじゃ…

ゅ バ バ ス ト ア ッ プ に 必 要 な 女 性 ホ ル モ

ょで脱いでんの? てか当たってるん



:!! ビクッ…!

と気を緩めたらすぐイっちゃいそう…千夏ち あいいよ千夏ちゃん…さすが元陸上部、すご

これはほぐしがいがあるなあり』じとおりじ

ちゅつ!





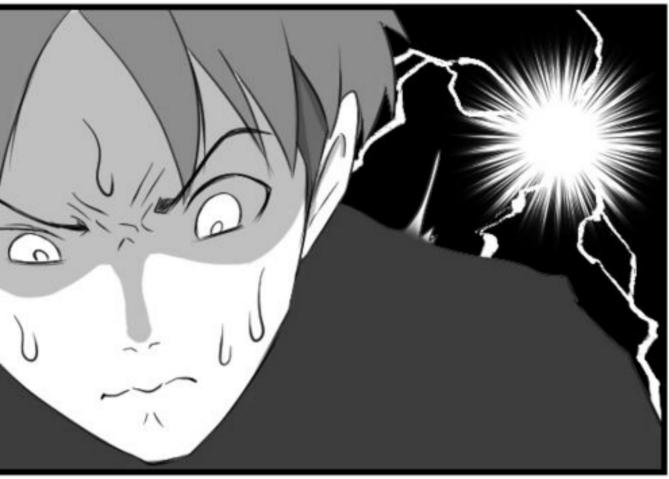
てくるかもね~w』 りとやるから安心してね~ 塗り込んで染みこませていくからね~もちろん これでおっぱいか

じさん達の特製ザーメン)ローションを千夏ち

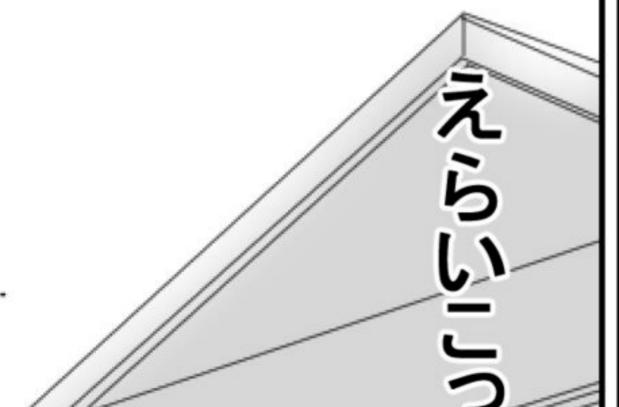
…夢か…いったいいつから……それにしてもご























『シフトレバー?…あぁ…足指でそんな風に撫でるなんて…そういうコト

考えてる千夏がエロいんだよ。何そのエロい足使い』

シフトレバーを自分のと見立ててしまう。

『そんなことないし!てかそうしたのは誰でしたっけ先生?』

『誰だろうなぁ~』

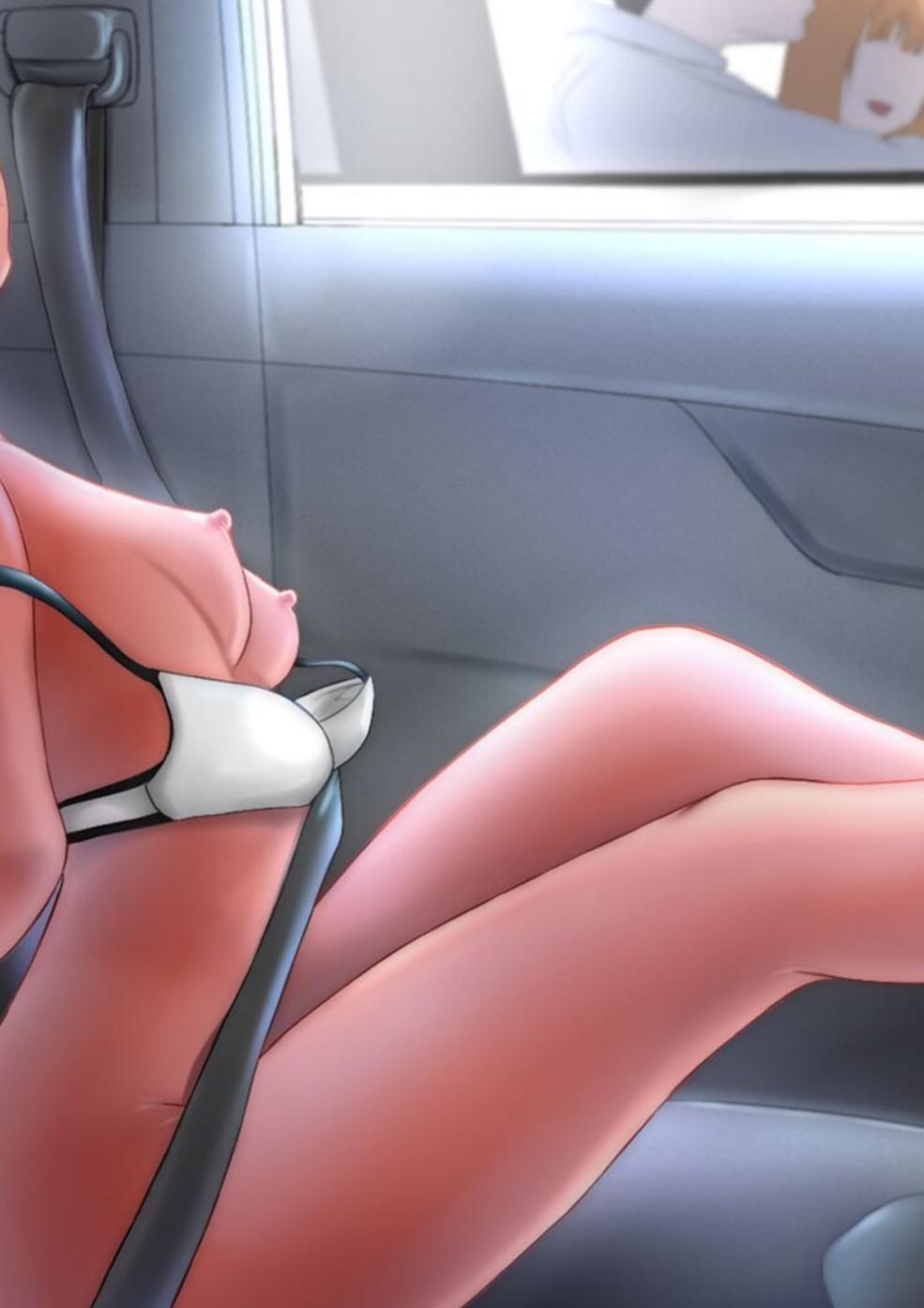
笑ってしらを切ってみせる。

『にっしーのと同じぐらいかな~』

『こんなにデカイか?』





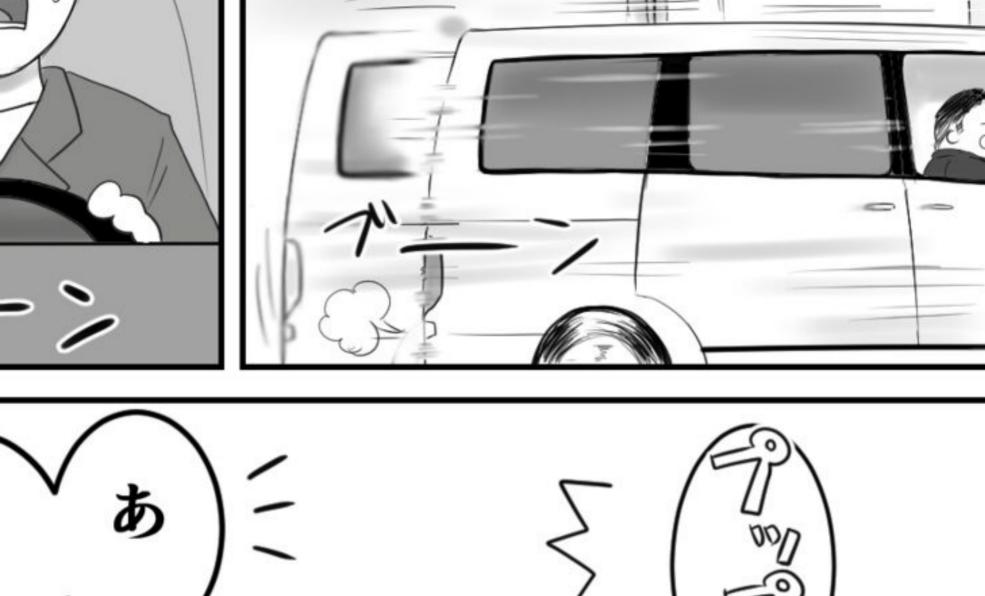
















中で盛大に漏らしたからまだお預けだよ』

アで送てこまって、まあ…」

いの?』







